



7月図書館企画 第169回 芥川賞・直木賞 候補作決定！

7月19日、東京において、選考会が開かれます。

どの作品が選出されるか、予想してみましょう。

※芥川賞候補作 5作品

『##NAEM##』 児玉雨子著

光に照らされ君といたあの時間を人は闇と呼ぶ。かつてジュニアアイドルの活動をしていた雪那。少年漫画の夢小説にハマり、名前を空欄のまま読んでいる。

『エレクトリック』 千葉雅也著

父の指示で黎明期のインターネットに初めて接続した達也は、ゲイのコミュニティを知り、おずおずと接触を試みる。轟く雷、アンプを流れる電流、身体から世界、宇宙へとつながってゆくエレクトリック。

『それは誠』 乗代雄介著

修学旅行で東京を訪れた高校生たちが、コースを外れた小さな冒険を試みる。その一日の、なにげない会話や出来事から、生の輝きが浮かび上がり、えも言われぬ感動がこみ上げてくる。

『ハンチバック』 市川沙央著

私の身体は、生き抜いた時間の証として破壊されていく。

『我が手の太陽』 石田夏穂著

腕利きの溶接工が陥った突然のスランプ。

いま文学界が最も注目する才能が放つ異色の職人小説。



※直木賞候補作 5作品

『骨灰』 冲方丁著

東京の地下には地獄が眠っている。進化し続ける異才が放つ新時代のホラー。

『極楽征夷大將軍』 垣根涼介著

史上最も無能な征夷大將軍。やる気なし、使命感なし、執着なし、なぜこんな人間が天下を獲れてしまったのか？

『踏切の幽霊』 高野和明著

1994年冬、東京・下北沢で起こった怪異の全貌を描き、読む者に慄くような感動をもたらす幽霊小説。

『香港警察東京分室』 月村了衛著

テロリストを追え！圧巻の国際警察小説。アクションあり、頭脳戦あり、個性豊かなキャラクターが躍動する、警察群像エンタテインメント。

『木挽町のあだ討ち』 永井紗耶子著

現代人の心を揺さぶり勇気づける令和の革命的傑作。



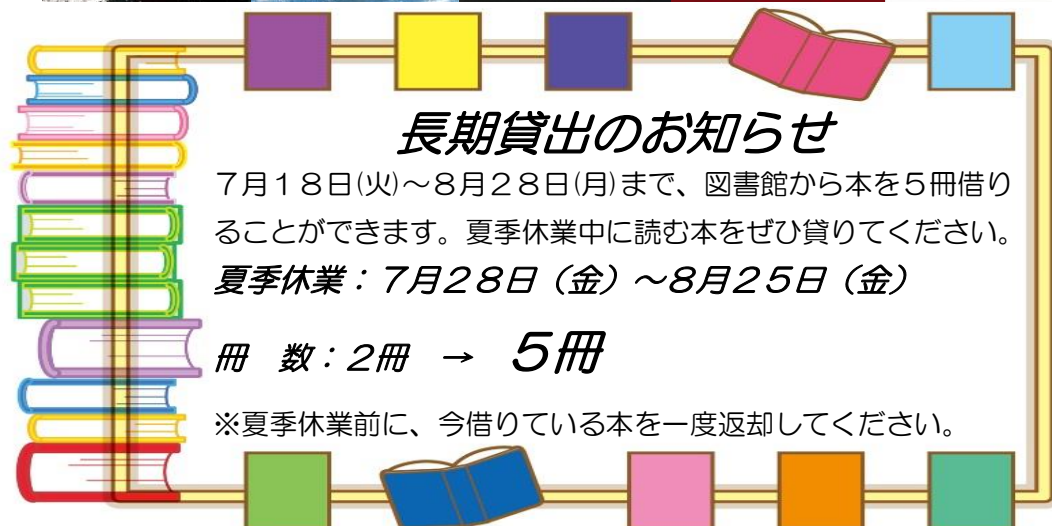
長期貸出のお知らせ

7月18日(火)～8月28日(月)まで、図書館から本を5冊借りることができます。夏季休業中に読む本をぜひ貸りてください。

夏季休業：7月28日(金)～8月25日(金)

冊数：2冊 → 5冊

※夏季休業前に、今借りている本を一度返却してください。



芥川賞 受賞作品を読んでみよう！

「彼岸花が咲く島」 李琴峰著 第165回受賞

その島では二ホン語と女語が話されていた。記憶を失くした少女が流れ着いたのは、ノロが統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった。不思議な世界、読む愉楽に満ちた中編小説。

「貝に続く場所にて」 石沢麻依著 第165回受賞

コロナ禍が影を落とす異国の街に、9年前の光景が重なり合う。

人と場所の記憶に向かい合い、静謐な祈りを込めて描く鎮魂の物語。

「ブラックボックス」 砂川文次著 第166回受賞

自衛隊を辞め、いまは自転車便メッセンジャーの仕事に就いているサクマは、都内を今日もひた走る。昼間走る街並みやそこかしこにあるであろう倉庫やオフィス、夜の生活の営み、どれもこれもが明け透けに見えているようで見えない。張りぼての向こう側に広がっているかもしれない実相に触れることはできない。

気鋭の実力派作家、新境地の傑作。

「おいしいごはんが食べられますように」

高瀬隼子著 第167回受賞

心をざわつかせる、仕事+食べもの恋愛小説。

ままならない人間関係を、食べものを通して描く傑作。***

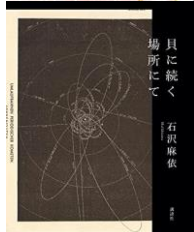
「この世の喜びよ」 井戸川射子著 第168回受賞

思い出すことは、世界に出会い直すこと。言葉にならない感情を呼び覚ましていく表題作「この世の喜びよ」をはじめとした作品集。

「荒地の家族」 佐藤厚志著 第168回受賞

あの災厄から十年余り、男はその地を彷徨いつづけた元の生活に戻りたいと人が言う時の「元」とはいつの時点か？ 誰もが何かを失い、元の生活には決して戻らない。仙台在住の書店員作家が描く、止むことのない渇きと痛み。

※ぜひ、図書館へ



直木賞 受賞作品を読んでみよう！

「テスカポリトカ」 佐藤究著 第165回受賞

川崎に生まれ育った天涯孤独の少年・土方コシモは麻薬密売人バルミロと出会い、知らぬ間に彼らの犯罪に巻きこまれていく。人間は暴力から逃れられるのか。心臓密売人の恐怖がやってくる。誰も見たことのない、圧倒的な悪夢と祝祭が、幕を開ける。

「星落ちて、なお」 澤田瞳子著 第165回受賞

父の影に翻弄され、激動の時代を生き抜いた女絵師の一代記。

「塞王の楯」 今村翔吾著 第166回受賞

秀吉が病死し、戦国の気配が近づく中、石工職人匡介（きょうすけ）は京極高次に琵琶湖畔にある大津城の石垣の改修を任される。攻め手の石田三成は、鉄砲職人彦九郎（げんくろう）に鉄砲作りを依頼した。大軍に囲まれ絶体絶命の大津城を舞台に、信念をかけた職人の対決が幕を開ける。

「黒牢城」 米澤穂信著 第166回受賞

本能寺の変より四年前、天正六年の冬。織田信長に叛旗を翻して有岡城に立て籠った荒木村重は、城内で起きる難事件に翻弄される。動揺する人心を落ち着かせるため、村重は、土牢の囚人にして織田方の智将・黒田官兵衛に謎を解くよう求めた。事件の裏には何が潜むのか。戦と推理の果てに村重は、官兵衛は何を企む。

「夜に星を放つ」 窪美澄著 第167回受賞

人の心の揺らぎが輝きを放つ五編。

「地図と拳」 小川哲著 第168回受賞

「君は満洲という白紙の地図に、夢を書きこむ」

奉天の東にある〈李家鎮〉へと呼び寄せられた男たち。

日本 SF 界の新星が放つ、歴史×空想小説。

「しろがねの葉」 千早茜著 第168回受賞

戦国末期、シルバーラッシュに沸く石見銀山。天才山師・喜兵衛に拾われた少女ウメは、銀山の知識と未知の鉱脈のありかを授けられ、女だてらに坑道で働き出す。ウメは欲望と死の影渦巻く世界にひとり投げ出されて、生きることの官能を描き切った新境地にして渾身の大河長篇！

